

学校だより



# 稲荷台

令和元年5月31日

6月号

横浜市立稲荷台小学校

## 「想像する」ということ

校長 平井 佳江

5月とは思えない猛暑の中、イナリンピック2019を無事に開催することができました。プログラムの変更や子どもたちの体調管理など、皆様の御協力に感謝します。また、快くテントを貸し出してくださった西前小学校の皆様、本当にありがとうございました。今年は白組の勝利となりましたが、どの子どもの顔にも、一生懸命頑張った満足げな表情がありました。

今月は、「想像すること」について書こうと思います。小学校国語科の教科書には優れた文学教材が数多く掲載されています。印象深い主人公を少し思い出してみます。

年を取って弱っていく愛犬エルフに「ずうっと大好きだよ」というぼく。

大きな魚のふりをして泳ぐ赤い魚たちに「ぼくが目になろう」と言ったスイミー。

戦火の中、家族と離ればなれになり、一人でかげおくりをするちいちゃん。

つぐないのくりや松たけを届けながら、兵十の火縄銃にうたれるごんぎつね。

鳥とはいえいかにも頭領らしい堂々とした残雪に心打たれる大造じいさん。

追い求めていたおとうのかたきであるクエにもりを打たなかった太一。

子どもたちは、登場人物といっしょに喜んだり悲しんだり、ぼくだったらこんな選択はしないと自分の考えを確かめたり、友達と語り合いながら、物語を読み進めます。国語の学習ですから読む力を付けるための学習であることには違いありません。しかし、物語を読むことは、そこに描かれる人物の心の内を想像することであり、人生を考えることだと思ふのです。

自分でない誰かの心の内を想像することは、人間だけに与えられた素晴らしい力です。喜びを分かち合い、悲しみに心を寄せることができるのは、「想像する」という力のおかげです。

フェイスブックやラインなど、ソーシャルネットワーキングサービスが生活に浸透し、インターネットを介して、世界中の人々とコミュニケーションが取れる時代の中で、顔が見えない相手に対しても、相手の心の内を想像しながら言葉を選ぶ自分でいたいと思います。

川崎の事件報道には、本当に心が痛みます。子どもたちの安全・安心を何としても守っていかねればと思います。そして、稲荷台小学校の子どもたちには、いつも人と心を通わせる喜びや温かさを感じてほしいのです。心を通わせた時間こそが、人生を支えてくれると思うからです。

### 【お知らせ】

学校では、学年に応じて、心身の発達に関わる学習、食に関わる学習、携帯電話やスマートフォンなどのネットトラブル防止、防犯や非行防止、薬物防止に関する学習など、子どもたちに必要な学習を行っています。御家庭でも話題にいただき、子どもたちの安全を見守っていきましょう。



自分とみんないいいいいな 稲荷台

